

第 6 回 SAF 官民協議会 議事要旨

○日時 令和 7 年 2 月 26 日(水)13:15～15:00

○場所 ハイブリッド(三田共用会議所 4F 特別会議室、Web)

○議題

- ①構成員の変更
- ②構成員の取組説明
- ③関係省庁からの取組説明
- ④事務局(資源エネルギー庁)からの説明
- ⑤事務局(国土交通省)からの説明
- ⑥自由討議

○議事概要

- ・ 冒頭、大田 圭 国土交通省官房参事官から、開会挨拶。
- ・ 事務局(国土交通省)から、資料 2 に基づき、新しい構成員および代表者の変更について説明。
- ・ 新しく構成員となった、株式会社ユーグレナから、資料 3 に基づき、SAF の取組みについて説明。
- ・ コスモ石油株式会社から、資料 4 に基づき、国産 SAF 製造の取組みについて説明。
- ・ 定期航空協会から、資料 5 に基づき、航空業界の現状、国産 SAF の社会実装へ向けた課題及び要望等について説明。
- ・ 環境省から、資料 6 に基づき、廃棄物からの SAF 等の次世代燃料の製造に向けた取組みや支援等について説明。
- ・ 農林水産省から、資料 7 に基づき、バイオ燃料等製造に係る資源作物の栽培の実証状況、家庭系廃食用油の回収に向けた取組み等について説明。
- ・ 経済産業省資源エネルギー庁から、資料 8 に基づき、SAF 供給拡大に向けた支援策、エネルギー供給構造高度化法における SAF 供給目標の設定、SAF を含む次世代燃料の 環境価値認証・移転制度の検討状況について説明。
- ・ 国土交通省から、令和6年度/令和7年度における航空局の取組、脱炭素推進計画の進捗等について説明。
- ・ 質疑応答・自由討議の形で意見交換。構成員からの主な発言は次の通り。
 - 廃食用油の回収目標等、今後の取組みの具体的な見込みを示していただきたい。
 - 確実なオフテイカー確保の環境づくりのために需要側の規制措置を検討いた

きたい。

- 今後の日本国内における SAF の供給・需要ともにあるべき姿を議論するべきではないか。
- 日本のエアライン及び空港はアジア各国のハブ空港との競争を行っている中で、顧客へ SAF 導入によるコスト転嫁を行えば日本国の競争力低下に繋がる。SAF を使用する上での対等な国際競争関係が実現されるまでの過渡期においては、SAF 社会実装化に向けた SAF 製造コスト低減のための更なる支援をお願いしたい。
- SAF によるコストの過剰な顧客転嫁は急激な需要の減少に繋がる可能性があり、回避できるように考えていくことが必要。

以上